

高級な一滴、大きなうねりに

昭和史 再訪

4年(1989年)8月

ミネラルウォーター発売



ボトル入りの天然水を買ったことで、前年より3%増えたのだ。水の安全に人々の意識が向き、今年も一昨年を上回る生産が見込まれる。「瓶詰水」の歴史を訪ねて日本一のミネラルウォーター生産地、山梨県へ向かった。JR身延線で甲府駅から約40分、身延町(下部温泉)の山間に小さな工場がある。ペ



1969年8月2日朝日新聞 新刊地域版(東京)

ルトコンペヤのガラス瓶に、加熱殺菌されて無気な状態で水が注がれていく。「昔ながらの味は、ペットボトルとは違う味わいがあります」と伊東延和常務(70)。

1929(昭和4)年8月に日本で初めて発売された無炭酸の「富士ミネラルウォーター」の下部工場だ。

炭酸入りのミネラルウォーターは先んじて明治時代に登場した。外国人居留地があった兵庫県の「三ツ矢野水」や「ウィルキンソン炭酸水」など。外田からの貴客向けの瓶詰めされた製造だった。

昭和の初め、政治家の秘書新平が下部温泉へ湯治に訪れた。わき水を瓶に詰めて帰る人を見て「まさか飲んでみるんじゃないだろうね」と現・富士急行の初代社長、堀内兵平に聞いた。フランスの「エビアン」の話をした。これにヒントを得た堀内が合名会社を作り、「日本エビアン」(別名「下部天然温泉」)として売り出したのが「富士ミネラルウォーター」の前身だ。

帝国ホテルなどの有名ホテルやレストランで売られる一方、「食卓用保健飲料結果」として、「水を飲み会」を作った。伊東延和が始めた。「温泉関係をはじめ、与謝野晶子さんや山田五十鈴さんも会員でした」と伊東さん、いつても



山梨県富士吉田市で採水し、下部工場での瓶詰のみの「富士ミネラルウォーター」(関東信託銀行、小倉製薬)

家庭に宅配水、高まる個人消費

ミネラルウォーターは農林水産省が1990年、品質表示ガイドラインで4種に定めた。●特定の水源の地下水を濾過、沈殿、加熱殺菌した「ナチュラルウォーター」、③のうち、鉱化された地下水の「ナチュラルミネラルウォーター」、④のミネラル分を調整、硬軟を合わせた「ミネラルウォーター」、⑤

⑥以外の飲料水「ポトルドウォーター」。10年前から企業や家庭にウォーターサーバーを置く「宅配水」が広がった。日本宅配水協会によると、現在業者は3千社弱、半数以上がポトルドウォーターを扱う。昨年の製造量は前年比47%増の約96万リットル。「ニーズは高まっており今後も個人消費が伸びる」とみる。

またまた一部の人々の「高級ミネラルウォーター」でしかなかった。戦後、高度成長期に入るとトリスバーやウイスキーの水割りが流行。昭和40年代にはニッカ、サントリーなどが水割りの水を発売し、「業務用ミネラルウォーター」が普及していく。家庭用を広めたのは、83年にハウス食品がカレライスのテイサーとして売り出した「六甲のおいしい水」だ。翌年には全国的な漏水も重なり「名水」ブームが起き、数年で200ブランド以上に上った。

88年に欧州の無炭酸のミネラルウォーターの輸入が正式に認められ、89年には家庭用の消費量が業務用を超えた。「所感が増え、海外旅行で水を買う機会も多くなったせい、か、90年以降あきらかに消費が増えました」と日本ミネラルウォーター協会長の藤原利雄(68)。

89年には、香雪の間で「エビアンウォーター」を首から下けて歩くのが流行。89年の「2000年問題」で飲み水需給が呼びかけられると、さらに伸びた。国内生産量は90年の15万リットルから89年には96万リットルに、昨年は98年の2.7倍に上った。かつて大人の「愛飲水」だったミネラルウォーターは、震災事故で「赤ちゃんから飲んで貰う水」となった。だが、日本には処理法などの規制はあるが、水源地採水地の環境保護の法的規制はない。日本一の生産地の山梨県でも「この業者がここから採った水をとらう販売しているかは、把握していない」(県大気水質保全課)という。

この夏の中元贈り物でもミネラルウォーターは好評で、早くも酷暑の水販売を計画するデパートもあるとか。「買う水の安全性は、さらに問われる」(宮坂孝子)。

◆次回は「昭和15年 戦況2000年」の予定です。